

東京2020大会の概要

Olympic and Paralympic Games

TOKYO
2020

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会概要

◆大会スケジュール

正式名称 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)
開催期間 令和3年7月23日(金)～8月8日(日)
競技数 33競技

正式名称 東京2020パラリンピック競技大会
開催期間 令和3年8月24日(火)～9月5日(日)
競技数 22競技

◆大会ビジョン

スポーツには
世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。
東京2020大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、
「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、
「そして、未来につなげよう(未来への継承)」を
3つのコンセプトとし、
史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

◆大会モットー

United by Emotion

大会モットーとは大会ビジョンを研ぎ澄ましたメッセージで、東京2020大会が世界と共有したいアイデアやコンセプトの本質をとらえたものです。近年のオリンピック・パラリンピックにおいては、競技会場装飾や都市装飾、デジタルメディアで掲出されるなど、重要な役割を果たしています。

◆東京2020エンブレム



くみいちまつもん
組市松紋

ところ あさお
朝雄
(制作者：野老 朝雄)

- ・「市松模様」を、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描きました。
- ・形の異なる3種類の四角形を組み合わせ、国や文化、思想などの違いを示す。違いはあってもそれらを超えてつながり合うデザインに「多様性と調和」のメッセージを込め、オリンピック、パラリンピックが多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表しています。
- ・オリンピックエンブレム、パラリンピックエンブレムとも、同じ45ピースの四角形から構成されています。

◆東京2020マスコット

大会史上初、小学生の投票によって生まれたマスコット。投票に参加した小学校は16,769校(海外の日本人学校等を含む)。(制作者：谷口 亮)

東京2020オリンピックマスコット 東京2020パラリンピックマスコット



ミライトワ
MIRAITOWA

ミライトワという名前は、「未来」と「永遠(とわ)」というふたつの言葉を結びつけて生まれました。名前に込められたのは、素晴らしい未来を永遠にという願い。東京2020大会を通じて、世界の人々の心に、希望に満ちた未来をいつまでも輝かせます。



ソメイティ
SOMEITY

ソメイティという名前は、桜を代表する「ソメイヨシノ」と非常に力強いという意味の「So mighty」から生まれました。桜の触角を持ち、驚きの強さを見せるソメイティ。東京2020大会を通じて、桜を愛する日本の心とパラリンピックアスリートの素晴らしさを印象づけます。

聖火リレー

◆コンセプト

オリンピック聖火リレー

Hope Lights Our Way

—希望の道を、つなごう。—

支えあい、認めあい、高めあう心でつなぐ聖火の光が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らしだします。

パラリンピック聖火リレー

Share Your Light

—あなたは、きっと、誰かの光だ。—

パラリンピック聖火リレーを通じて、社会の中で誰かの希望や支えとなっている多様な光が集まり出会うことで、共生社会を照らす力としようという想いを表現しています。

◆トーチ



東京2020聖火リレートーチは、日本人に最もなじみ深い花である桜をモチーフとしています。オリンピックトーチの色は「桜ゴールド」、パラリンピックトーチの色は「桜ピンク」です。トーチを上部から見ると桜の形をしており、5枚の花びらから生まれた炎がトーチ中央でひとつになる設計となっています。トーチの素材の一部には、東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材を再利用*しています。人々の生活を見守ってきた仮設住宅が、平和のシンボルとしてトーチに姿を変え一歩ずつ復興に向けて進む被災地の姿を世界に伝えます。

*トーチに用いられている再利用アルミの含有率は30%です。

◆復興の火

復興の火は、東日本大震災から10年目となる令和2年3月20日（金）～3月25日（水）までの間、震災復興に尽力している被災地の方々に向け、宮城県、岩手県、福島県の順番で展示しました。

福島市では3月24日（火）午後2時30分から午後5時まで福島駅東口駅前広場に展示され、約3,000人が訪れました。



東日本大震災があった2011年3月11日に生まれた子どもたちが登壇したセレモニー



新型コロナ感染拡大防止対策を行ったうえでの一般公開

◆オリンピック聖火リレーの概要

スケジュール

スタート 令和3年3月25日（木）Jヴィレッジ(福島県)
ゴール 令和3年7月23日（金）オリンピックスタジアム

2021年3月25日に福島県を出発し、以降日本全国47都道府県を回る全国参加型リレーです。

世界遺産や名所・旧跡・地域の人に愛されている場所など、各地域の魅力あふれる場所で聖火リレーを実施し、移動日を含む121日間を通じて喜びや情熱をつなげました。

◆福島県のオリンピック聖火リレー

DAY-1

2021.3.25 Thu

- 🏠 グランドスタート(Jヴィレッジ)
- ① Jヴィレッジ ② 檜葉町 ③ 広野町
 - ④ 川内村 ⑤ いわき市 ⑥ 富岡町
 - ⑦ 葛尾村 ⑧ 双葉町 ⑨ 大熊町
 - ⑩ 浪江町 ⑪ 南相馬市
- 🏠 セレブレーション(雲雀ヶ原祭場地)

DAY-2

2021.3.26 Fri

- ① 相馬市 ② 飯舘村 ③ 新地町
 - ④ 川俣町 ⑤ 福島市 ⑥ 猪苗代町
 - ⑦ 三島町① ⑧ 三島町② ⑨ 喜多方市
 - ⑩ 会津若松市
- 🏠 セレブレーション(鶴ヶ城公園)

DAY-3

2021.3.27 Sat

- ① 南会津町 ② 下郷町 ③ 白河市
 - ④ 本宮市 ⑤ 須賀川市 ⑥ 田村市
 - ⑦ 郡山市
- 🏠 セレブレーション(開成山公園)



オリンピック聖火リレーは、令和3年3月25日(木)にナショナルトレーニングセンター「Jヴィレッジ

ジをスタートし、3日間かけて福島県の26市町村(28区間)を通過しました。東日本大震災から10年となる節目の年に行われるリレーとして、復興の歩みを進める福島の人々に希望と勇気を与えました。

◆福島市のオリンピック聖火リレー

福島県2日目 第5区間 福島市
 と き/令和3年3月26日(金)午前11時18分~12時34分
 走行距離/約5.14km
 出 発 地/信夫ヶ丘競技場
 到 着 地/福島県庁西庁舎前県民広場



スタート前セレモニー(場所:信夫ヶ丘競技場)
 午前10時より開催したスタート前セレモニーでは、福島市のほか、近隣自治体である伊達市、桑折町、国見町の皆さんからもご協力いただき、太鼓やマーチングバンド、吹奏楽などの演奏・演技を通して東日本大震災時に国内外からいただいた復興支援への「感謝」と、聖火ランナーの皆さんへ「エール」をお届けしました。
 出演者/太鼓演奏

- ・ 錦町太鼓保存会 (国見町)
 - ・ 三若連 (桑折町)
 - ・ 霊山太鼓保存会 (伊達市)
- 野田小学校マーチングバンドクラブ
 吉井田小学校マーチングバンド部
 ふくしま古関楽団2020



こせき ゆうじ 古関裕而作曲の「栄冠は君に輝く」を演奏する ふくしま古関楽団2020



花見山を模した花の装飾と復興支援への感謝を発信する横断幕

ミニセレブレーション（出発式）

福島市出身の古閑裕而さんをモデルとする作品にご出演したことをきっかけに福島市内を走る聖火ランナーに選ばれた菊池桃子さんが第一走者として、市内小中学校から選ばれた20人のサポートランナーと共に信夫ヶ丘競技場をスタートしました。



ふくしま古閑楽団2020が演奏する古閑裕而作曲「オリンピック・マーチ」にのせて出発する第一走者の菊池桃子さんとサポートランナー



福島県公募で選出された福島市ゆかりのランナーである進藤あけ乃さん

◆パラリンピック聖火リレーの概要

聖火フェスティバル

パラリンピックの聖火は、パラリンピック発祥の地ストーク・マンデビル（イギリス）と47都道府県で行われる聖火フェスティバルで採火されました。

まず、聖火フェスティバルは、競技開催都県（静岡県、千葉県、埼玉県、東京都）を除く43道府県で令和3年8月12日（木）～16日（月）に実施。その後、競技開催都県で8月17日（火）～20日（金）にそれぞれ実施されました。

集火式

各地で集火された火は8月20日（金）夜に開催都市である東京都へ集められ、パラリンピック聖火となりました。

開催都市内聖火リレー

原則として「はじめて出会う3人」が1組のチームとなり、8月21日（土）～24日（火）に東京都内をリレーしました。このリレーをきっかけに生まれた新しい出会いが、共生社会へつながる新しい気付きを与えてくれることを期待させてくれます。

◆聖火フェスティバル採火式に向けた福島市種火起こし（場所：街なか広場）

令和3年8月13日（金）、市在住パラリンピアンや障がいのある方、ホストタウン交流相手国であるスイス、ベトナム出身の方など12名が参加し、東京パラリンピック聖火のもととなる種火をマイギリ式により起こしました。種火には、将来に向けた共生社会実現への願いを込めて、様々な立場の方が分け隔てなく対等な関係で助け合い、共に生活できる社会実現への思いが込められています。

この「福島市の火」は、福島県内の各市町村で採火した種火とともに集約され、浜通り、中通り、会津地方の3つの火となり、さらに8月15日（日）に「福島県の火」として集約されました。



「マイギリ式」での火起こし



共生社会や多文化共生への願いを込めて、様々な立場の方が参加

東京2020オリンピック競技大会

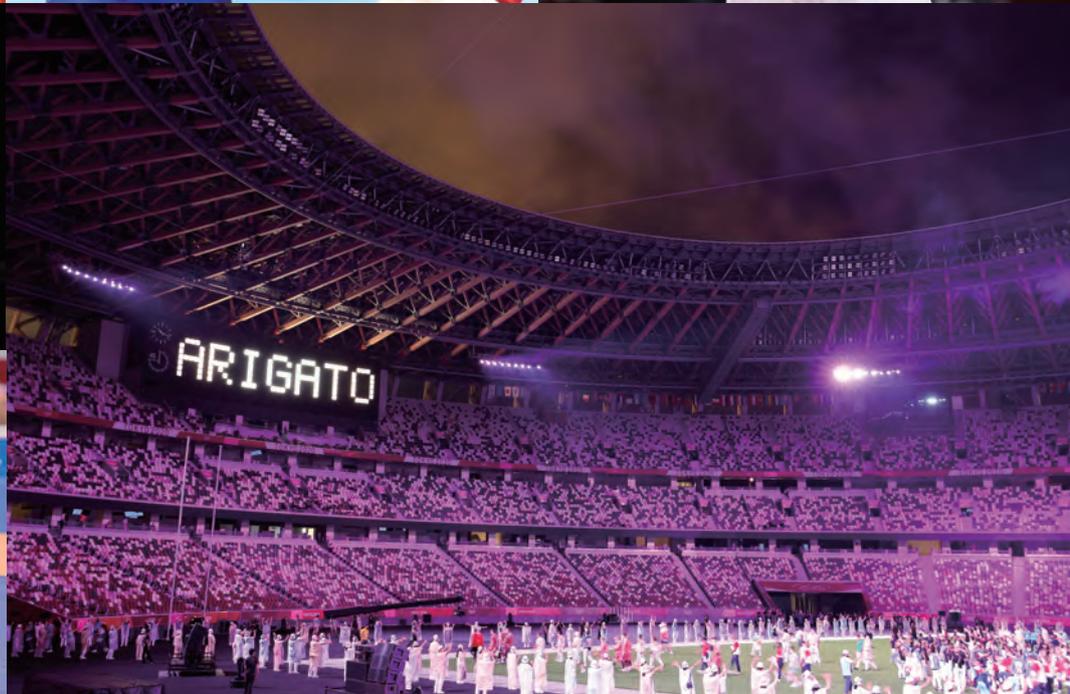
Tokyo 2020 Olympic Games



新型コロナウイルス感染拡大の影響により1年延期となり、東京都に緊急事態宣言が発令される中、開会式をはじめほぼ全ての競技が無観客で行われるという異例づくしの大会となった東京2020オリンピック競技大会。

世界の205の国内オリンピック委員会ならびにオリンピック難民選手団から約1万の選手が参加。2021年7月23日から8月8日までの17日間、史上最多の33競技339種目が行われ、日本代表選手も過去最多となる583人が参加しました。

日本代表選手団は、金27、銀14個、銅17個と、史上最多となる58個のメダルを獲得し、金メダルの数では世界3位に入りました。



東京2020パラリンピック競技大会

Tokyo 2020 Paralympic Games



東京パラリンピック競技大会は過去2番目に多い161カ国・地域と難民選手団が参加し、選手数4,403人、女子1,853人と史上最多となりました。8月24日から9月5日までの13日間で22競技539種目が行われました。

日本選手は過去最多で、今回の参加国・地域で最も多い254人が出場しました。

日本は金13個、銀15個、銅23個の合計51個のメダルを獲得し11位。2004年アテネ大会の52個に次ぐ数となりました。今大会では、金メダルの獲得が無かった前回のリオデジャネイロ大会から、大きく躍進しました。



福島あづま球場 から始まった 東京オリンピック



初戦を託された日本代表の絶対的なエース・上野由岐子投手。オーストラリアに先制点を与えながらも緩急を使いながらコースにしっかり投げ分ける好投を見せた



4回のツーランホームランで追加点をあげて点差をふじたやまと突き放した藤田俊選手



7/21 ソフトボール
予選リーグ試合1
日本 8 - 1 オーストラリア

試合2 アメリカ 2 - 0 イタリア
試合3 カナダ 4 - 0 メキシコ



無観客開催のため、球場スタンドに観客の姿は無くひっそりと静まり返っていた



本市の小学生が育てたアサガオで競技会場の入り口を彩るフラワーレーンプロジェクト



福島市のモモを植木鉢で会場に設置し選手や関係者をおもてなし



東京オリンピックは7月23日の開会式に先がけ、福島市にある福島あづま球場での野球・ソフトボール競技から始まりました。7月21・22日のソフトボールが1日3試合ずつ、7月28日の野球は1試合で、計7試合が開催。

全試合無観客開催で静かな幕開けとなりましたが、野球・ソフトボール共に福島あづま球場での試合は全て勝利を取めた日本代表は、そのまま勝ち進み、見事金メダルを獲得。その姿は、福島の人々に感動をもたらしてくれました。



メキシコ戦、マウンドに集まり円陣を組む日本代表選手たち



あつみまな
延長8回、渥美万奈選手のショートゴロの間に
やまだえり
三定の主将・山田恵理選手が本塁に突入して劇的な勝利を飾った日本代表選手たち



7回ノーアウト一塁二塁で登板し、2者連続三振などで
ごとうみう
ピンチを切り抜けたチーム最年少20歳の後藤希友投手

7/22 ソフトボール 予選リーグ試合 5 日本 3 - 2 メキシコ

試合 4 カナダ 0 - 1 アメリカ

試合 6 オーストラリア 1 - 0 イタリア



選手たちに向けて「ふくしまからありがとう」の横断幕を掲げるボランティアの皆さん



球場内の大型ビジョンでは世界中からの応援メッセージ動画を投影



アメリカ代表のエリクセン監督(右)が「福島のはももはデリシャス」と会見で発言し、SNSでも話題に

ソフトボール日本代表の勢を受け継いだ野球日本代表選手たちは、最後まで諦めない気持ちをついに、土壇場で試合をひっくり返しました。3時間16分の熱戦は、震災から復興への歩みを進める福島の人々を勇気付けてくれました。



4者連続三振を含む9つの三振を奪うなど6回をヒット2本無失点と好投した先発のやまもとよしのお選手



「福島の皆さんが応援し、支えてくれたことに感謝している」と話したいなばあつりの稲葉篤紀監督

9回、1アウト満塁の場面でセンターオーバーのサヨナラヒットを打った坂本勇人選手

7/28 野球 予選リーグ グループA 試合1 日本 4 - 3 ドミニカ共和国



試合終了後、観客のいないスタンドにもあいさつをする日本代表選手たち

福島の桃、デリシャス!



新型コロナウイルスの影響で無観客開催となった福島でのオリンピック。
東日本大震災から10年が経った福島の姿を多くの皆さんに直接見ていただくことはできませんでした。
そのような中、復興へと歩む福島の人々にとって励みとなる嬉しい出来事がありました。

「#福島の桃デリシャス」

令和3年7月22日、ソフトボールの試合後の記者会見でアメリカとオーストラリアの監督が福島のモモを絶賛する場面がありました。このことが話題となり、SNSを通じて海外に広がり、福島のモモの美味しさを広くPRする機会となりました。



写真:長田洋平/アフロスポーツ



写真:長田洋平/アフロスポーツ

アメリカ代表 ケン・エリクセン監督

【ソフトボール女子アメリカ代表 ケン・エリクセン監督】

「コロナ対策でメディアが外に出られず、福島が美しく、安全なことを世界に伝えられなかったことが残念」と発言。

そして、「モモはデリシャスだった」「ホテルで6個食べた」と福島のモモの美味しさを絶賛いただきました。

また、「福島の人々がファーストクラスの運営をしてくれた」「まるで王様と女王様のような丁寧な扱いをもらった」とホテルや球場のスタッフへの感謝の気持ちを話されました。

【ソフトボール女子オーストラリア代表 レイン・ハーロウ監督】

「とても美しい町で山々がとても印象的。そして、何よりモモはずばぬけている」と福島について好印象を発信していただきました。

「デリシャス!大きさにびっくり!」

令和3年8月24日～28日に福島市で開催されたスイスパラバドミントン代表事前合宿において、市から選手団にモモをプレゼント。早速、モモを頬張っていました。選手団からは、福島のモモの美味しさを絶賛いただきました。

【カリン ズーター・エラス選手 (写真左)】

「デリシャス!」「大きさにびっくりした」と福島のモモを絶賛。

【シンシア マテズ選手 (写真右)】

「緑が美しく、まるでスイスのよう」「訪れたことがあるのかのように感じる」と福島市に親近感を示してくれました。

